

6. 上記 4. で述べた通り、本展は序章から終章にいたるまで、次の 8 章から構成されています。

- 1) 序 章 知られざる関東の将軍—「小弓公方足利義明」とは—
- 2) 第 1 章 東国の武王—「関東足利氏」の誕生
- 3) 第 2 章 父と子と・・・小弓公方前史：永正の乱の勃発と分裂する関東足利氏
- 4) 第 3 章 義明小弓に立つ!!—小弓公方の成立、真里谷武田氏の思惑・千葉氏の動向
- 5) 第 4 章 下総国相模台に散る—第一次国府台合戦と足利義明の戦死
- 6) 第 5 章 復活の公方家—その後の小弓公方家と喜連川家の成立
- 7) 第 6 章 現代（いま）を駆ける—連綿と続く足利氏の血脈
- 8) 終章 総括—「小弓公方足利義明」が千葉市域と関東にもたらしたもの

以上の通り、本企画展は内容量が大なるものがあり、今回は前半の一部、即ち序章から第 2 章までを取り上げ、それ以外は次回以降、別の機会に紹介したいと思います。

また、展示の全てを紹介するのは、困難なので主要な事項のみを断片的に紹介することにならざるを得ず、結果的に一貫した理解が困難なこともあるかと思えます。それを少しでもなくすため、会場で販売されていた図録から「関連年表」を別途掲載しましたので、併せて参照願います。

なお、本見学メモは展示場で撮影した写真と会場で販売していた図録によります。しかし、本展では、写真撮影は禁止されているところであり、従って、本メモは、会員限りとし、他に見せたり、渡したりしないようにくれぐれもよろしく願いいたします。

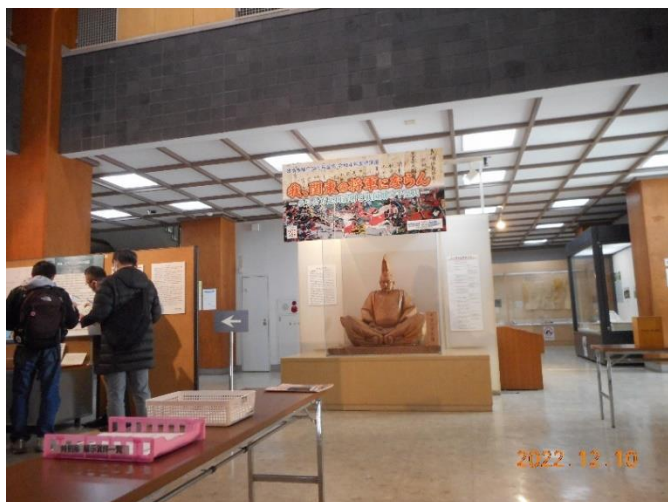


写真 2. 展示会場



写真 3. 展示会場におけるギャラリートークの様子

(本展の紹介)

## 1. 序章 知られざる関東の将軍—「小弓公方足利義明」とは—

パネル（写真撮影をしなかったため、全文を図録から引用致します。）

足利義明（？～天文2年（1538）、幼名愛松王は、古河公方足利政氏の子。はじめは、関東の宗教界の頂点に立つ鶴岡八幡宮の若宮別当「雪下殿」空然として、関東の政治・宗教の支配体制「公方—社家体制」の一翼を担っていた。

しかし、政氏と兄の足利高基による抗争「永正の乱」において、空然も自立を志して挙兵、父政氏、兄高基そして弟空然の三巴の争いが発生した。空然は還俗して「義明」と名乗る。一時は高基と連携した義明だが、高基が政氏を古河（現在の茨城県古河市）から追って公方の座を確保すると、今度は政氏に味方し兄と対立する。

永正15年（1518）7月、房総の諸勢力を結集する旗印として、義明は真里谷武田氏により、同氏が前年に原氏から奪った小弓城に迎えられた。「小弓公方」の成立である

小弓に御所を構えた義明は道哲と称し（以降も便宜的に義明と呼ぶ）、真里谷武田氏や安房里見氏などの諸勢力の支援の下、一時南関東を覆う勢力圏を築き上げ、兄の古河公方高基や甥の足利晴氏と対立した。義明の目的は兄や甥を倒し、唯一の公方（関東の将軍）になることであった。そのため義明は里見氏などの傘下の諸勢力を動員して、高基や高基側の千葉氏などと各地で戦いを繰り広げた。このように義明が関東に及ぼす影響は大きく、義明の本拠となった当時の千葉は、古河と並ぶ関東の政治的中心地となったといえる。

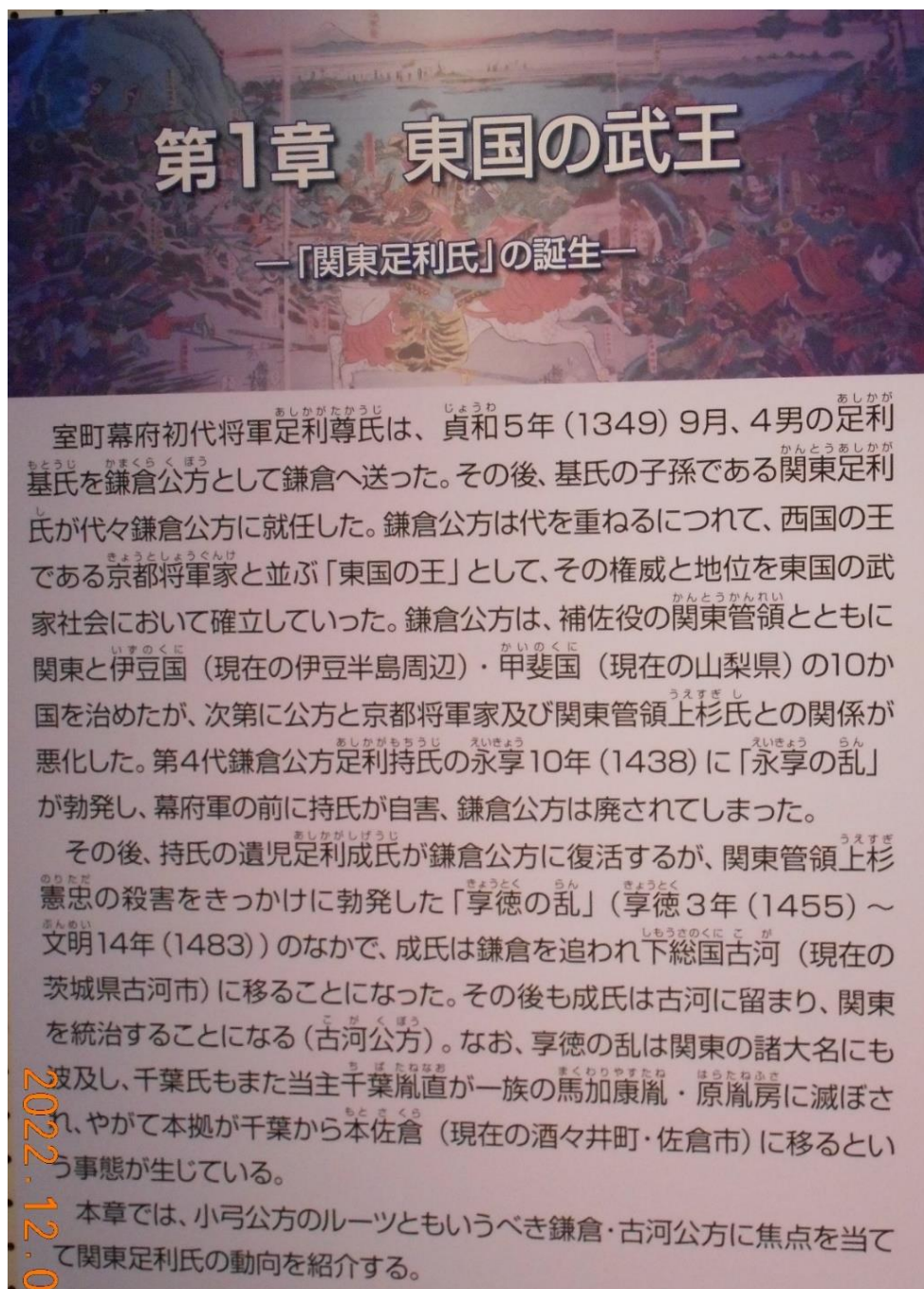
当時の関東では、小田原を本拠とする「北条氏」が次第に台頭してきた。当初義明と北条氏は協力関係にあったが、北条氏が義明側の勢力である扇谷上杉氏の領国を制圧し、本格的に房総に手を伸ばす情勢になると、義明と北条氏との争いは避けられなくなった。天文7年（1538）、古河公方晴氏は北条氏当主の北条氏綱に義明退治を命じた。義明と氏綱は同年10月7日、下総相模台（現在の松戸市）で激突した。有名な第一次国府台合戦である。この戦いで義明は、弟の足利基頼や長男の足利義淳たちとともに討たれ、小弓公方は事実上滅亡した。

義明は死んだが、全てが義明登場前の状況に復帰したのではなかった。義明打倒の功績により関東管領の地位を得た北条氏は、古河公方を傀儡として北関東や房総への進出を本格化させる。千葉・原氏は小弓を奪還したが、房総の支配をめぐる里見氏との抗争の中で北条氏の支援を頼った結果、北条氏への従属の道を歩むことになるなど、関東戦国史は大きな変化を見せるようになった。

このように小弓公方足利義明は、関東の戦国社会の枠組みを変える重要な存在だったのである。

(序章の展示は、別途ファイルにまとめて、「序章、第1章追加資料」として一部紹介しますので、そちらを参照願います。)

## 2. 第1章 東国の武王―「関東足利氏の誕生」― パネル1.



(注：上記パネル記載の「享徳の乱」については、別添ファイル「序章、第1章追加資料」P.4上段を参照願います。)



あしかがもとうじざう  
パネル 2. 「足利基氏坐像」 (初代鎌倉公方)



1-2 パネル「足利基氏坐像」

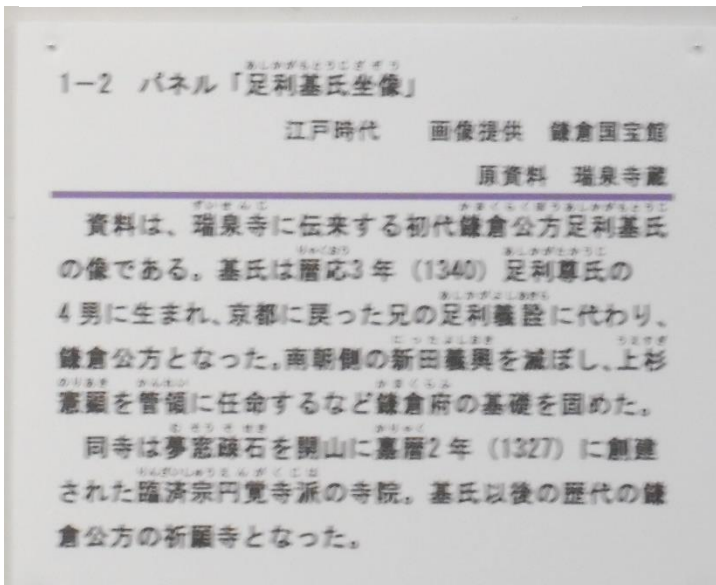
江戸時代 画像提供 鎌倉国宝館

原資料 瑞泉寺蔵

資料は、瑞泉寺に伝来する初代鎌倉公方足利基氏の像である。基氏は暦応3年(1340)足利尊氏の4男に生まれ、京都に戻った兄の足利義詮に代わり、鎌倉公方となった。南朝側の新田義興を滅ぼし、上杉憲顕を管領に任命するなど鎌倉府の基礎を固めた。同寺は夢窓疎石を開山に嘉暦2年(1327)に創建された臨済宗円覚寺派の寺院。基氏以後の歴代の鎌倉公方の祈願寺となった。

2022.12.06

上記パネルの説明文の拡大



うえすぎぜんしゅう らん  
パネル 3. 「国指定史跡 上杉禅秀の乱 敵御方供養塔」

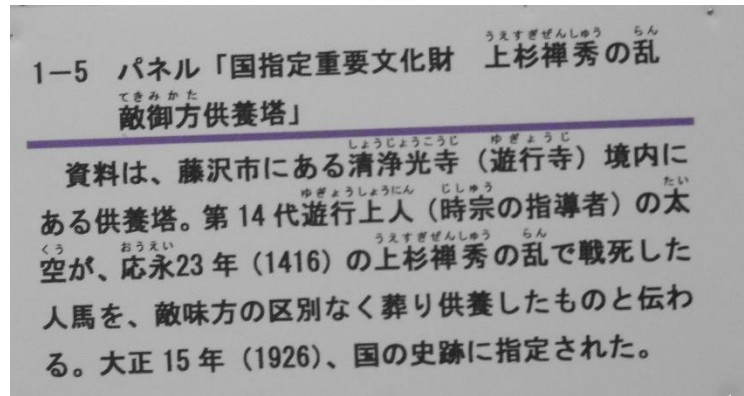


1-5 パネル「国指定重要文化財 上杉禅秀の乱 敵御方供養塔」

資料は、藤沢市にある清浄光寺(遊行寺)境内にある供養塔。第14代遊行上人(時宗の指導者)の太空が、応永23年(1416)の上杉禅秀の乱で戦死した人馬を、敵味方の区別なく葬り供養したものと伝わる。大正15年(1926)、国の史跡に指定された。

2022

上記パネルの説明文の拡大



左記パネルの説明文の文字が、不鮮明なので、改めて全文を記します。

パネル「足利基氏坐像」

江戸時代 画像提供 鎌倉国宝館

原資料 瑞泉寺蔵

資料は、瑞泉寺に伝来する初代鎌倉公方足利基氏の像である。基氏は暦応3年(1340)足利尊氏の4男に生まれ、京都に戻った兄の足利義詮に代り鎌倉へ送られ、鎌倉公方となった。南朝側の新田義貞を滅ぼし、上杉憲顕を管領に任命するなど鎌倉府の基礎を固めた。同寺は夢窓疎石を開山に嘉暦2年(1327)創建された臨済宗円覚寺派の寺院。基氏は夢窓疎石に帰依し、同寺を再興した。以後、歴代の鎌倉公方の祈願寺となった。